

2019年調査観察会（第8回）報告

1. 開催日程：2019年7月13日（土）～14日（日）
2. 開催場所：岐阜和田高原周辺地域（日和田高原ロッジ・キャンプ場）
3. 参加者数：14名
4. 開催状況につきましては、大木裕幹事補佐に、さらに一般からの初参加された西脇ファミリーと津田さん、松野さんには、会に参加した感想をお願いしました。

キャンプ場の広大な敷地の中には、湿地、池、溪流、広葉樹林など多彩な環境が存在し、敷地内だけでも十分に調査・観察を楽しめました。参加会員9名のうち5名がハネカクシに興味を持つ方々であったため、ハネカクシの話題が盛り上がり、雨の中でも成果が得られたようです。ナイター装備を設置つけましたが、雨天のため甲虫の飛来はわずかでした。また、コテージを借り切ったので、夜遅くまで虫談議を楽しめたのは調査観察会ならではといえます。敷地内の湿地では、スゲハムシとスジクロボタルが確認されました。カミキリムシでは、開田高原方面で得られているヤツボシロカミキリが敷地内で確認されました。千間樽高原の柳蘭峠の林道には、シヨウマ、ゴトウヅルの花が豊富で、多くの *Pidonia* 類やジョウカイボン類がよく飛来していました。さらに、針葉樹の貯木場のそばで日中にゲンジボタルが見つかっています。その他の甲虫類では、マエクロチビオオキノコムシ、オオアカチビヒラタムシ等の一般的に少ないと考えられる山地性の種類の確認ができ、さらにナガゴミムシ類、チビシテムシ類、ヒゲブトハネカクシ類がトラップで得られました。そして今回の何よりのトピックスは、本学会のHPを見て一般からの参加がありました。彼らの姿を通して昆虫採集を始めた頃のことを思い出しました。（文：大木 裕）



図1. ロッジ前での記念写真。

今夏の日本甲虫学会の調査観察会に息子（中3）の虫友達（中1，高1）と家族で参加させて頂きました。息子は幼稚園の頃より昆虫に目覚めましたが、夫婦共無知のため、各地の自然観察会等に参加し楽しんでおりました。ただ中学生にもなると欲しい情報も特殊になり、本やインターネットで調べても疑問は尽きないようでしたので、自力での昆虫採集の限界を感じておりました。そのような時にこの会を知り、素人が場違いでご迷惑かと思いましたが、快いお返事を頂き参加することができました。現地では、人生の大先輩方が肉眼で見えないような昆虫についても熱く、温かく、幸せそうに語っていらっしゃるのを見て、昆虫の奥深さを改めて思い知らされました。子ども達にとっても、技術、知識を教わったのはもちろんのこと、昆虫愛を貫き通した生き様を肌で感じられた事が、今後の人生の指標ともなったことでしょうか。短い時間でしたが大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。

（文：西脇克俊・西脇理恵・西脇玲央・津田正太郎・松野拓海）



図2. 参加者の寄せ書き。

（調査観察会幹事 日下部良康・幹事補佐 大木 裕）